| 訓練対象時間帯 | シナリオ概要 | 検証ポイント |
| --- | --- | --- |
| フェーズ１  地震発生直後 | ・●月平日の日中（業務時間内）に最大震度６強の地震発生。  ・多くの住宅が倒壊し、生き埋め者も多数発生している模様だが全容は掴みきれていない。  ・火災の発生や、鉄道の緊急停止。また、ため池の堤の一部欠損等の被害が発生。  ・情報収集や対応判断を進めているところに、最大震度５強の余震発生。  ・各種情報等の収集・監視、現場への職員派遣や危険個所への対応判断、また住民からの問合せ電話への対応等に迫られる。  ・ため池の堤に大きな亀裂が入り、決壊の恐れが高まる。また、市内の複数個所で土砂災害が発生。孤立地区の発生も懸念される。  ・大きな被害の発生を受けて、報道機関からの問合せも相次ぐ。 | ・初動体制の確立  ・職員の動員判断  ・重要情報の選別 （情報の優先度）  ・本部長への的確・迅速な具申・報告  ・適切な避難情報の発令及び避難誘導  ・住民からの膨大な問合せ電話への対応  ・迅速、明解かつ多様な手段による住民への情報発信  ・全庁的な情報共有  ・災害の全体像の把握（空白地区や孤立地区の発見）  ・外部機関への迅速な応援要請  ・適切な報道対応 |
| フェーズ２  地震発生  ２〜３日後 | ・死者は10名を超え、まだ捜索中の人もいる。  ・多くの住宅が損壊。開設した指定避難所には高齢者、障害者、乳幼児も含め多数の避難者がいる。  ・停電、断水、ガスの遮断が続き、在宅避難者も苦しい生活を余儀無くされている。  ・緊急消防援助隊、自衛隊、DMAT等の救援部隊や他市町村からの応援職員、ボランティアも各地から駆けつけている。プッシュ型の救援物資も次々と入ってきた。  ・連日の長時間の災害対応で多くの職員が疲弊。中には、被災した職員もいる。 | ・災害関連死対策  ・避難所対応  ・応急対策職員派遣制度に係る動き  ・他市町村等への人的支援要請及び受援準備・受入れ  ・プッシュ型の物的支援要請及び受援準備・受入  ・住民への迅速・的確な広報 |

内陸地震　シナリオ大枠